

《大会プログラム》

第1日 4月19日(土)

11:00~12:00	理事会・評議員会 (127 講義室)	
12:45~13:30	総会 (127 講義室)	
13:30	開会の挨拶 会長・吉田 憲司	
13:40~16:40	シンポジウム ^{ヒト} 人間と ^{ヒトガタ} 人形、そのあわい 司会：佐々木 重洋	
13:40~13:50	趣旨説明	佐々木 重洋 (文化人類学)
13:50~14:20	ヒトとモノのあわい—等身大人形劇の実践から	山中 海瑠 (文化人類学・人形劇)
14:20~14:50	アニメーションからバイタリティーへ —現代人形劇における物の命の変容	山口 遥子 (人形劇史・芸術哲学)
14:50~15:20	日本の人形・形代・操りの思想	中尾 薫 (演劇学・芸能史)
15:20~15:50	ドイツ語圏モダニズムにおける「動く人形 (ひとがた)」 —舞踊と人形劇を中心に	山口 庸子 (ドイツ文学・舞踊史・身体文化)
15:50~16:00	休憩 (10分)	
16:00~16:15	コメント	黒谷 都 (遣い手)
16:15~16:40	討論	
16:40~16:50	休憩 (10分)	
16:50~17:30	第22回木村重信民族藝術学会賞授賞式	
18:00~20:00	懇親会 (名古屋大学南部生協 Mei-Dining)	

第2日 4月20日(日)

9:30~12:05	一般発表 (発表25分、質疑応答10分、入れ替え5分)	
9:30~10:05	ディスフラスとサラマコーメセレイエスのカーニバルにおける仮面と権力の象徴性—	吉村 宥希 (文化人類学)
10:10~10:45	中央アジア・ウズベキスタンの平織り技法 —スルハンダリヤ州ボイスン郡のウズベク牧畜民の生活から—	志田 夏美 (民族学)
10:50~11:25	中国貴州省東南部におけるミャオ族の染色工程と社会的位置づけ	佐藤 若菜 (服装)・山田 華緒李 (染織)
11:30~12:05	ヒトと風土が織りなす絹文化—「秩父太織」の軌跡に着目して	小澤 茉莉 (絹文化)
12:05~13:15	休憩 (70分)	
13:15~14:30	一般発表	
13:15~13:50	民俗芸能を伝えるヒト・ワザ・モノ —鬼柳鬼剣舞の事例から—	山中 千紗子 (文化人類学)
13:55~14:30	都市祭礼における「本義」追求の諸相 —「大垣祭の軸行事」におけるユネスコ世界遺産登録と Covid-19 パンデミックとの関連から—	矢田 達也 (芸能)
14:30	閉会の挨拶	